

4. 河川整備の目標に関する事項

4.1 洪水・高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する目標

4.1.1 目標設定の背景

岩木川では古くから洪水被害に見舞われており、特に昭和33年8月、昭和50年8月、昭和52年8月洪水においては、甚大な被害が発生しました。

これに対して、順次、堤防整備等の河川改修を進めてきましたが、現在の治水安全度は未だ十分ではなく、過去に経験した戦後最大洪水である昭和33年8月洪水や昭和52年8月洪水と同規模の洪水が発生した場合には、甚大な被害の発生が予想されます。

このため、目標を定め、計画的な治水対策を実施していくことが必要です。

4.1.2 整備の目標

(1) 戦後最大規模の洪水への対応

洪水による災害発生の防止及び軽減に関しては『戦後最大洪水である昭和33年8月洪水（上岩木橋地点）、昭和52年8月洪水（五所川原地点）と同規模の洪水が発生しても、床上浸水等の重大な家屋浸水被害を防止するとともに、水田等農地についても浸水被害の軽減に努める』ことを整備の目標とします。

この目標を達成するため、各主要地点における河道の目標流量を定め、適切な河川管理及び堤防整備、河道掘削、ダムの建設などを総合的に実施します。

表 4-1 主要地点における河道の配分流量

河川名	地点名	地先名等	河道配分流量 [整備計画目標流量]
岩木川 本 川	五所川原	青森県五所川原市寺町	2,500 m ³ /s [2,900 m ³ /s]
	上岩木橋	青森県弘前市大字下湯口	1,400 m ³ /s
平 川	百 田	青森県弘前市大字百田	1,700 m ³ /s

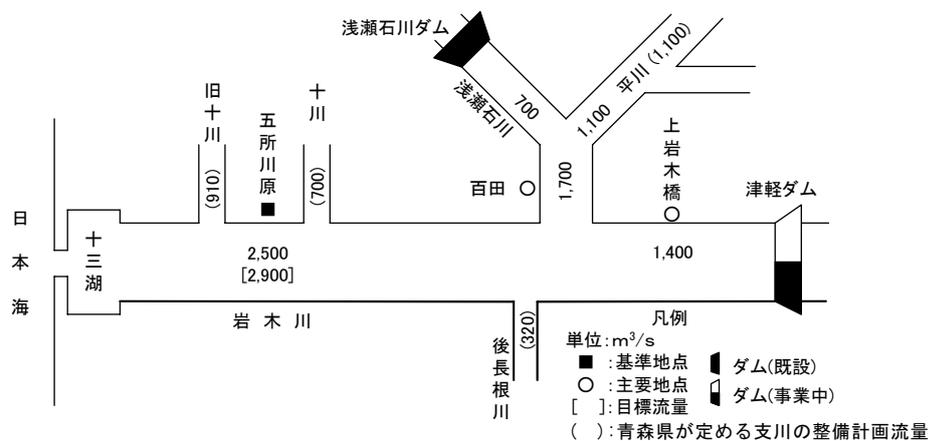


図 4-1 主要地点における河道の配分流量

※昭和52年8月洪水：五所川原地点で、概ね約40年に1回の洪水規模に相当。

※河道配分流量：整備計画で対象とした洪水において、ダムなどの洪水調節施設の効果を見込んだ場合の流量。

※整備計画目標流量：整備計画で対象とした洪水において、氾濫やダムなどの洪水調節施設がないと想定した場合に流れる流量。

4. 河川整備の目標に関する事項～洪水・高潮等による災害の発生防止または軽減に関する目標～

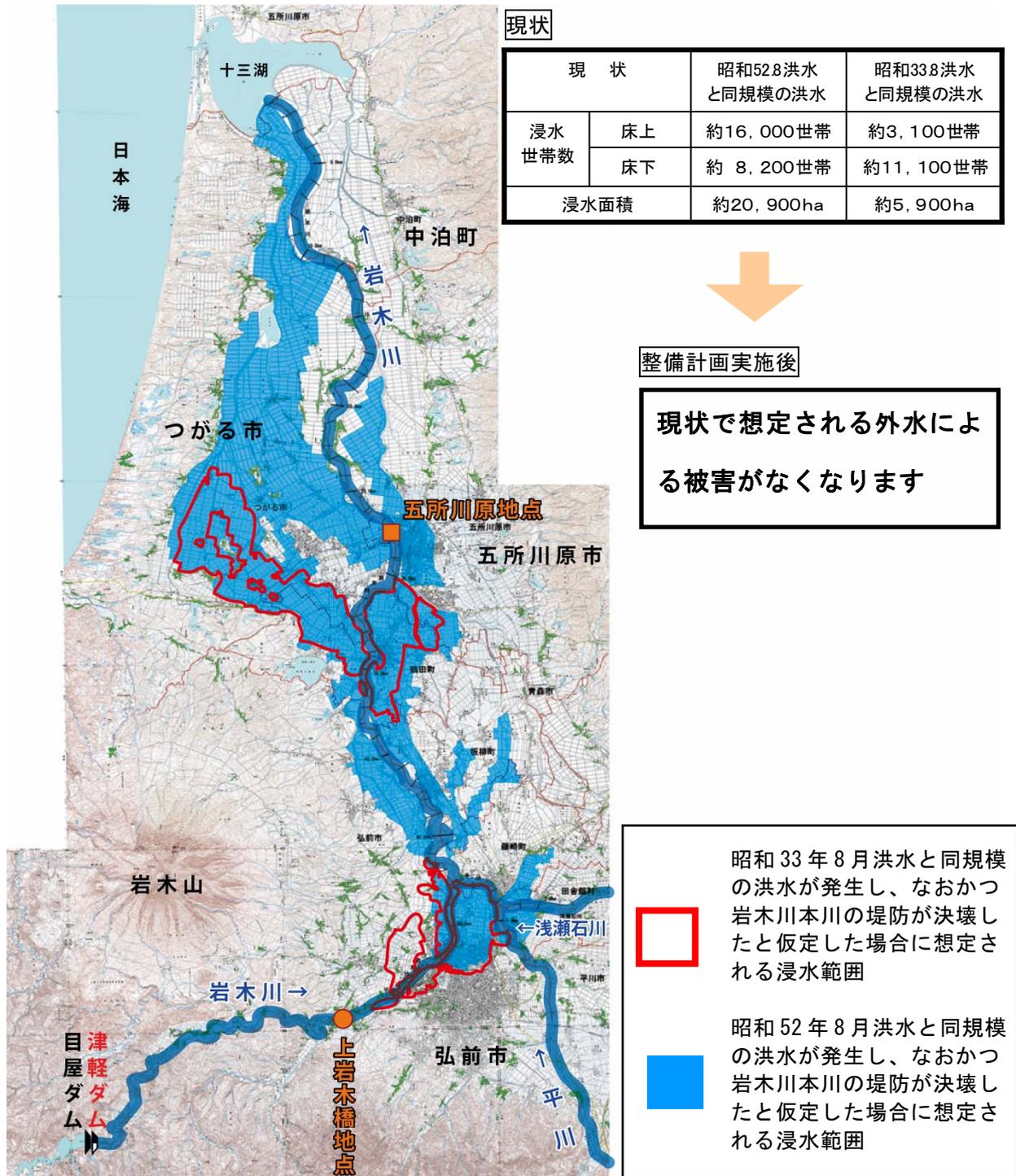


図 4-2 現状の外水による浸水想定範囲

■ 浸水想定図作成条件

岩木川の整備状況やダムなどの洪水調節効果は現時点の状況を想定し、戦後最大規模の降雨と同規模の大雨が降った場合の浸水状況をシミュレーションにより想定しています。

シミュレーションは岩木川の水位が危険水位に達した時に堤防が決壊すると仮定して行い、支川の氾濫や内水による氾濫は考慮していません。

なお、昭和52年8月の実績洪水においては、岩木川下流部で危険水位まで水位が上昇しましたが堤防の決壊等の被害はありませんでした。

※危険水位について

完成堤防の場合：計画高水位

暫定堤防の場合：現況の堤防で安全に流下させることが可能な最高水位

(2) 内水被害への対応

内水氾濫による堤内地の被害状況を勘察し、市町村や下水道事業者、土地改良区等の関係機関と調整を行いながら、効果的な内水被害の軽減に努めます。

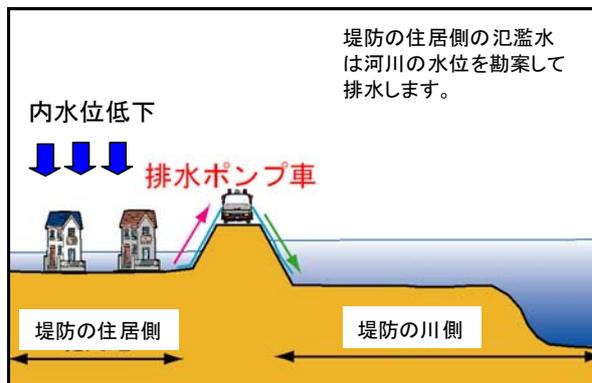


図 4-3 内水排除イメージ



五所川原市相原地内での内水排除状況

(出典：青森河川国道事務所)

(3) 危機管理体制の強化

河道や洪水調節施設の整備が途中の段階で、現在の川の流下能力を上回る洪水が発生しても、被害を軽減するため、堤防整備、水防活動拠点整備等のハード対策に加え、市町村へのハザードマップ作成の支援や自治体との防災情報の共有・提供等のソフト対策を推進し、危機管理体制の強化を図ります。

4.2 河川の適正な利用および流水の正常な機能の維持に関する目標

4.2.1 目標設定の背景

岩木川流域は、頻繁に渇水による水不足に見舞われており、その被害軽減を図るため、河川管理者・利水者等が渇水情報連絡会等を通じて、渇水に対する対策や情報交換等を行っています。

このような頻繁に生ずる渇水に対して、人々の生活はもとより多様な動植物の生息・生育環境の保全、水質保全を図るためには、必要な流量を確保するとともに、限りある水資源を有効に活用する必要があります。

4.2.2 整備の目標

(1) 河川の適正な利用

河川水の適正な利用に関しては、限りある水資源の有効利用を図るため、水利用の合理化を進め、より適正な水利用が図られるように努めます。

(2) 流水の正常な機能の維持

岩木川水系河川整備基本方針に基づき、アユをはじめとする動植物の生息・生育や良好な水質の確保など、流水の正常な機能を維持するために必要な流量として、五所川原地点において概ね $19\text{m}^3/\text{s}$ 、上岩木橋地点において概ね $5\text{m}^3/\text{s}$ を確保します。

表 4-2 主要地点における流水の正常な機能を維持するために確保する流量

河川名	地点名	地先	確保する流量	補給するダム
岩木川	五所川原	青森県五所川原市字寺町	概ね $19\text{m}^3/\text{s}$	津軽ダム 浅瀬石川ダム
岩木川	上岩木橋	青森県弘前市大字下湯口字青柳	概ね $5\text{m}^3/\text{s}$	津軽ダム
浅瀬石川	朝日橋	青森県南津軽郡田舎館村 大字川部字下川	$2.2\text{m}^3/\text{s}$	浅瀬石川ダム

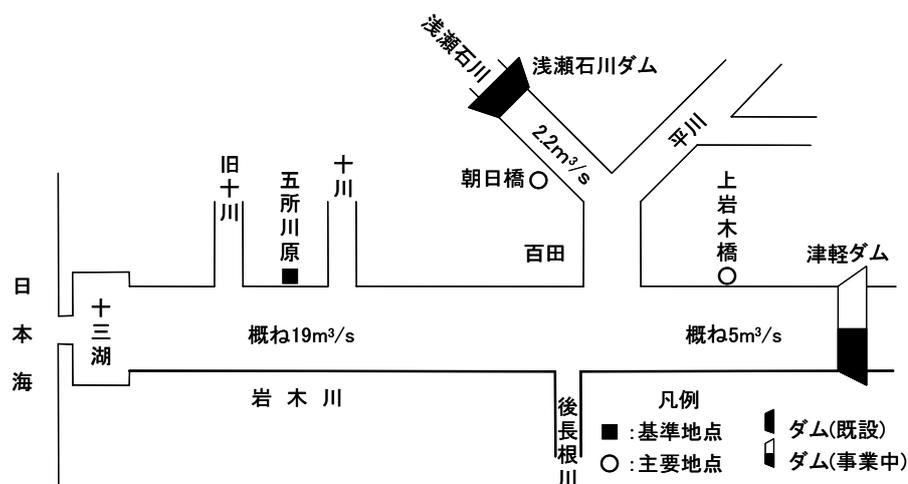


図 4-4 主要地点における流水の正常な機能を維持するために確保する流量

4.3 河川環境の整備と保全に関する目標

4.3.1 目標設定の背景

岩木川は美しい風景と豊かな自然に恵まれ、地域の生活や歴史・文化を育んできました。

河川環境の整備と保全に関しては、これまでの流域の人々と岩木川との関わりを考慮しつつ、岩木川の流れが生み出した良好な河川景観を保全し、多様な動植物が生息・生育する豊かな自然環境を次世代に引き継ぐよう努めます。このため、流域の自然的・社会的状況を踏まえた空間管理等の目標を定め、河川環境の整備と保全を推進していく必要があります。

4.3.2 河川環境管理基本計画 ～津軽の母 岩木川にあずましさを求めて～

河川空間の整備にあたっては、岩木川水系の河川空間の基本的整備・管理方針を定めた「岩木川水系河川環境管理基本計画(空間環境管理計画)平成2年3月策定」(以下環境管理計画)に基づき実施してきました。今後は、流域の自然的・社会的状況の変化や地域住民・沿川住民の要望などを踏まえ、河川環境管理計画の項目内容の追加、変更、見直し等のフォローアップを行い、河川空間の整備・管理を適切に実施します。

また、河川水辺の国勢調査など各種環境情報データの蓄積に努め、具体的な環境管理目標設定のための環境指標の検討を行い、環境管理計画を河川空間管理のみならず河川環境全般にわたる内容となるよう充実を図ります。

4.3.3 整備の目標

(1) 動植物の生息・生育環境の保全

下流部の広大なヨシ原や特定種の豊富なワンド、中流部におけるオオタカの営巣木等を保全するとともに、魚類の遡上環境の確保やアユ・ウグイの産卵場の保全、外来種の拡大防止に努めます。

(2) 水質の維持・改善

定期的・継続的に水質調査を実施するとともに、県・市町村などの関係機関や流域住民との連携を図り、流域全体での水質改善意識の啓発など、水質の維持と改善を目指した取り組みを進めます。

(3) 良好な景観の保全

源流の白神山地、津軽平野のシンボルである岩木山、中流部の河道内樹木やリンゴ園、下流部のヨシ原、津軽国定公園に位置する十三湖など、源流から河口部まで多様な姿を見せる岩木川の流れと調和した、河川景観の保全を図ります。

(4) 人と河川とのふれあいの場の確保

岩木川の恵みを生かしつつ、住民参加と地域連携により、自然とのふれあい、環境学習ができる場の整備・維持・保全を図ります。

※あずましさ：居心地が良い、癒される、ゆったりとした様等を包括した青森県津軽地方の方言

4.4 河川の維持管理に関する目標

4.4.1 目標設定の背景

「災害の発生の防止」、「河川の適正な利用」、「流水の正常な機能の維持」、「河川環境の整備と保全」等の観点から、これまでに様々な施設が整備されてきました。それに伴い維持管理が必要な施設も急増しています。また、老朽化した施設も数多くあることから、効率的・効果的な維持管理の実施が必要となっています。

4.4.2 維持管理の目標

河道、河川敷、堤防、ダム及びその他の河川管理施設がその本来の機能を発揮できるよう良好な状態を持続させるためには適切な維持管理が必要です。このため、河川管理施設の状況を的確に把握するとともに、状態を評価し、更には状態に応じた改善を行い、「治水」「利水」「環境」の目的を達成するために必要なレベルを持続させていくこと目指します。

表 4-3 維持管理の目標

管理項目		目標
河川管理施設	堤防	洪水を安全に流下させるために必要となる堤防の断面や、侵食・浸透に対する強度、法面の植生などの維持・持続に努めます。
	護岸	洪水時における流水の作用に対して、護岸の損壊により河岸崩壊や堤防決壊を招かないようにするために、護岸の必要な強度や基礎部の根入れの維持・持続に努めます。
	樋門・樋管堰等	洪水時に施設が正常に機能するために必要となる施設やゲート設備等の強度、機能の維持・持続に努めます。
河道	河道	洪水を安全に流下させるために必要な流下断面の維持・持続に努めます。
	樹木	洪水を安全に流下させるため、洪水の阻害となる樹木群に対する適正な管理の維持・持続に努めます。
河川空間		適正な河川の利用と安全が確保されるように努めます。
ダム		平常時及び洪水・濁水を含む異常時にダムの機能を十分発揮できるよう、施設の維持管理に努めます。